

茨城県图画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（平成31年8月）

研究テーマ	色彩の調和と偶然性を楽しみ、共感する絵画指導の工夫 一小学校第6学年「感じたままに花」の実践を通して
-------	---

龍ヶ崎市立長山小学校 教諭

I 研究テーマについて

絵画の作品作りにおいて、色の配合は大きなポイントの一つである。似た色を作ろうとしても、絵の具を混ぜる量の微細な違いで、作り出される色は違う物になる。時には偶然作られた色が、自分の表現したい色と一致することもある。児童同士での意見交換や何気ない気付きを共有し、豊かな表現力が身に付く授業展開が求められる。共感する活動については、作品鑑賞をして、他者の作品の良いところを見つけられるようとする。その中から、自分の作品に活用することができるよう意見交換も行える手立てを作っていく。そして、自身の作品への表現力を高めるようにする。

指導にあたっては、指導内容である色の混ぜ方、他作品の鑑賞への取り組み方についての工夫が必要である。児童が意欲的に授業に取り組めるように、掲示物や言葉かけといった仕掛けが重要になってくる。

以上のように、作品を表現する技能の向上と情操教育の観点から授業展開を模索し、「表現活動の工夫や楽しさ」を得ることを研究テーマとする。

II 研究の実際

1 題材名 感じたままに花

2 題材の目標

- 花の形や色を自分なりにとらえ、絵に表すことをしたのしむ。 (関心・意欲・態度)
- 画面の組み立て方や配色を、かきながら考えたり試みたりする。 (発想や構想の能力)
- 描画材料の扱い方を工夫し、その効果を確かめながらかく。 (創造的な考え方)
- 友だちの作品を見て、そのよさや美しさ、おもしろさを感じ取る。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童（生徒）の実態 (男子19名 女子16名 計35名 平成29年11月7日)

質問	集計結果
図工科の授業に 관심がある。	ある：11 ややある：17 やや無い：3 無い：0
絵画の授業に 관심がある。	ある：0 ややある：23 やや無い：9 無い：3
色を作る活動は得意である。	得意：6 やや得意：26 やや得意でない：2 得意ではない：1
色を作る活動は好きである。	好き：12 やや好き：16 やや好きで無い：7 好きではない：0
作品鑑賞の活動に 관심がある。	ある：3 ややある：23 やや無い：9 無い：0

本学年は図工科に 관심がある児童は多いが、絵画作品を作る内容に対して苦手意識をもつ児童も多い。これまでの授業でも、技術の有無にかかわらず、自信をもってすぐにかき

出せる児童は少なかった。色を作ったり、塗ったりする活動は好きでも、全体のデザインや構成を考えることがあまり得意ではない。しかし、ある程度の目処が立つと集中して活動に取り組む事ができる。児童に少人数グループ等で活動に取り組ませると、積極的に意見交換をしたり、参考にして絵を描いたりする児童が多い。本単元では、児童間の言語活動が活発になるような手立てを作り、全員が楽しんで意欲的に活動に取り組めるようにしていきたい。

(2) 題材観

心を開き、材料や自分自身、友達などとかかわり合うよさをしる活動が中心となる。見たものの形や色、印象などをもとに描材材料の扱いや画面構成の工夫など、自分なりのかき方を見つけながら、絵に表すたのしさ、快さを味わう。

花弁を描くためには、明確なイメージを元に、色や形を創る必要がある。教師からの支援や友達との関わりを経て、どのように想像していくかが重要になってくる。また、イメージを形にするために、どんな手立てや工夫が必要かを自ら考え表現することで、「絵や立体、工作費表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見つけることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること」（小学校学習指導要領 第2章 第7節 図画工作 第5学年および第6学年 A表現イ）につながる。

(3) 指導観

計画の段階で児童の想像を膨らませるために、参考作品の掲示などの教師側からの働きかけや、友達同士で自由に意見交換する活動を取り入れて授業を展開していく。具体例を用いる場合には、児童の創造性が失われないよう、抽象的な範囲に収める。

混色を作る活動では、児童が興味関心をもてるよう、導入として普段触れることの無い珍しい色を作る活動を取り入れる。さらに、他の児童が作った色と比較する活動を行い、絵の具を混ぜて様々な色を作り出すことができる楽しさを味わわせるとともに、表現の自由度の高さを感じさせて作品制作への意欲を高める。加えて、絵の具用パレットの使い方を改めて確認し、混色を作る活動が円滑に行われるようとする。

鑑賞をする際には教師からいくつかの項目を設けることで、混色の味わいの違い、創作時の工夫、制作者の個性や特徴に気付くことができるようとする。また、様々な作品に触ることで創作意欲を引き立てるようにする。褒める、認めるといった関わり合いも行い、それぞれの作品の良さを認めることで情操を養うとともに、今後の創作活動に生かせるようにする。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
花の形や色を自分なりにとらえ、絵に表すことをたのしむ。	画面の組み立て方や配色を、かきながら考えたり試みたりする。	画面の組み立て方や配色を、かきながら考えたり試みたりする。	友だちの作品を見て、そのよさや美しさ、おもしろさを感じ取る。

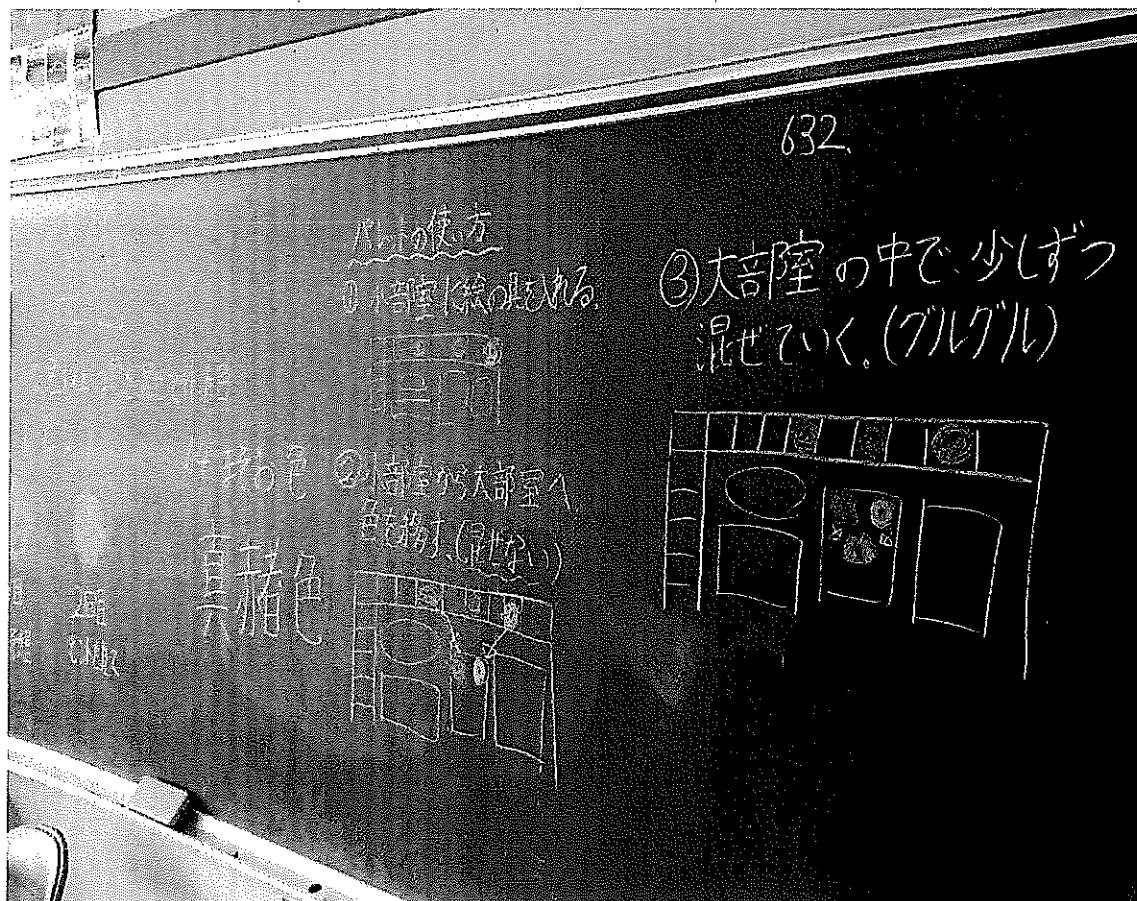
5 指導と評価の計画（5時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ②	描画材料の特徴や扱い方を確認し、感じたままに表現する。	・花の形や色を自分なりにとらえ、興味を持って絵に表すことを楽しんでいる。 技【作品1点】
	色を混ぜ合わせて、自身の構想に沿った色を作り出す。	・配色を描きながら考えたり、試みたりしている。 技【プリント】
第2次 ②	自分の好きな形や色の花をイメージして、思いのままに表現する。	・描画材料の扱い方を工夫し、その効果を確かめながら描いている。 技【作品1点】
第3次 ①	自他の作品を鑑賞して、表現のよさや違い、美しさを話し合う。	・友達の作品を見て、そのよさや美しさやおもしろさを感じ取っている。 鑑【ワークシート】

6 指導の実際

第1次 ①描画材料の特徴や扱い方を確認し、感じたままに表現する。

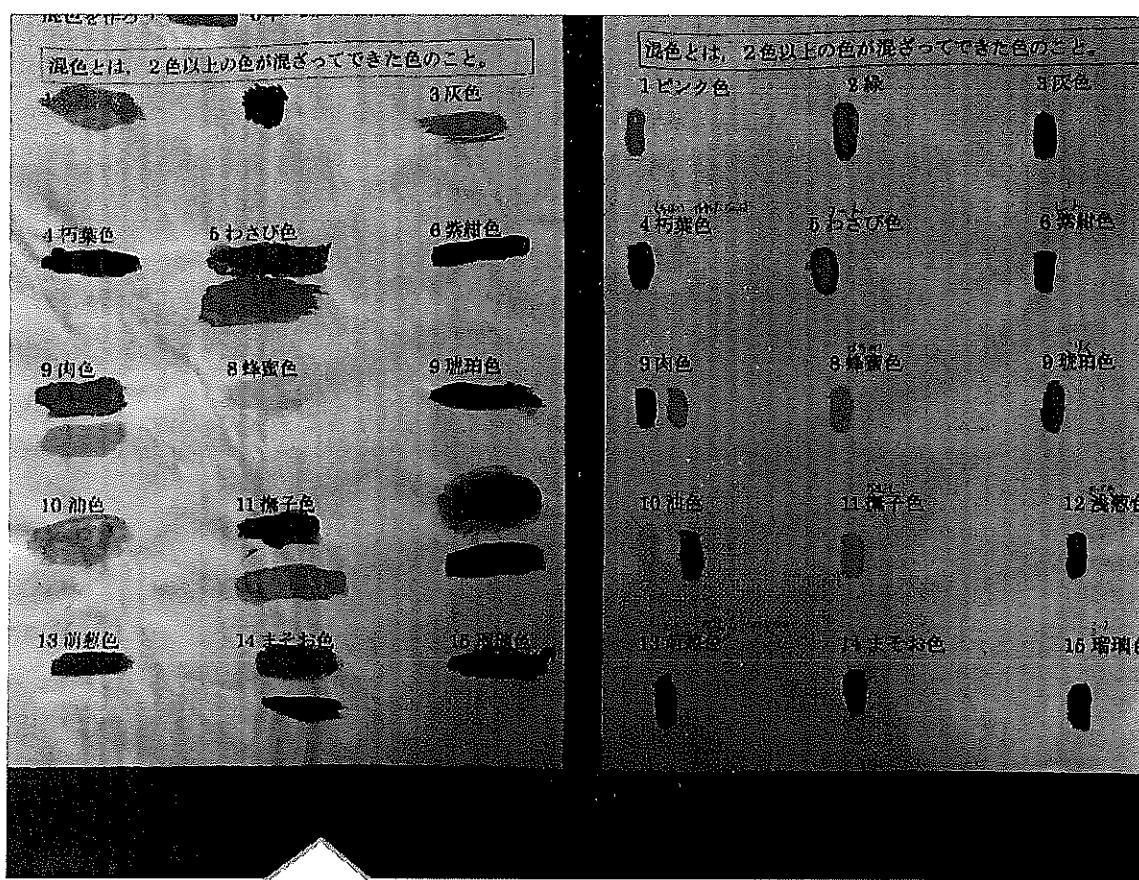
絵の具用パレットの使い方を確認して、実践しながら創作活動に挑戦する。ここでは細かい指示は出さず、あくまでも自由な表現活動を楽しむことを目的として扱う。色の混ぜ方だけでなく、水の量や筆の洗い方についても指導しておく。



第1次 ②色を混ぜ合わせて、自身の構想に沿った色を作り出す。

用意したワークシートに表記されている15種類の色（ピンク色、緑色、灰色、朽葉色、わさび色、紫紺色、肉色、蜂蜜色、琥珀色、油色、撫子色、浅葱色、萌葱色、まそお色、瑠璃色）を、想像して作り出してみる。この時、ヒントなどは出さずに自分の予想で色を作つて見る。

色が一通り作れたら正しい色を見せ、画像を参考にしながら、正しい色作りに挑戦する。正しい色と細かく比較し、明るさや濃さについて確認するよう声かけをする。隣の席の友達とも見比べながら、同じ色でも少しずつ見え方が違うことについても指導する。



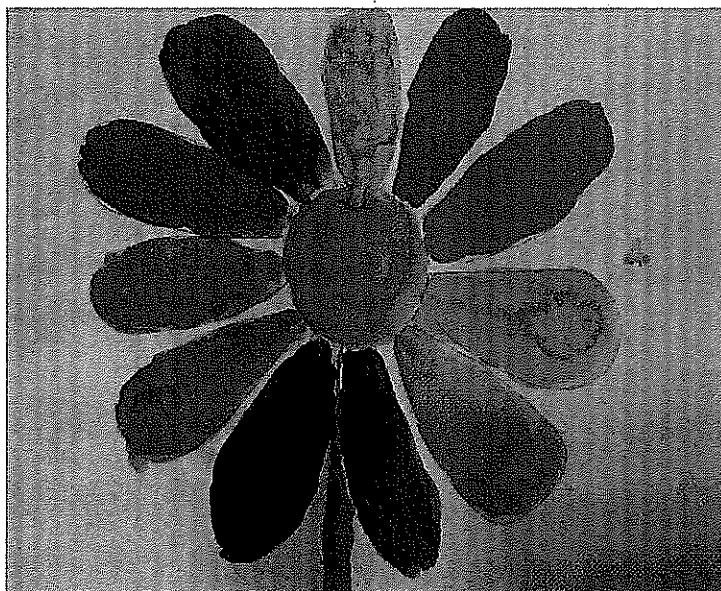
言葉の雰囲気や身近なものを参考に、予想して色を作る。

見本の色を参考に、どの組み合わせが良いのかを試行錯誤する。

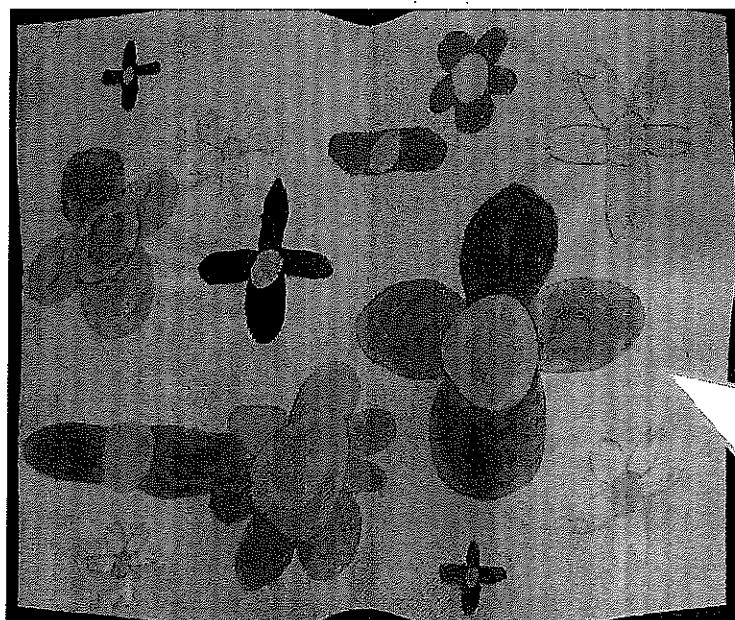
色を混ぜる時に、どんな色になるかわくわくして取り組むことができ
る。

第2次 自分の好きな形や色の花をイメージして、思いのままに表現する。

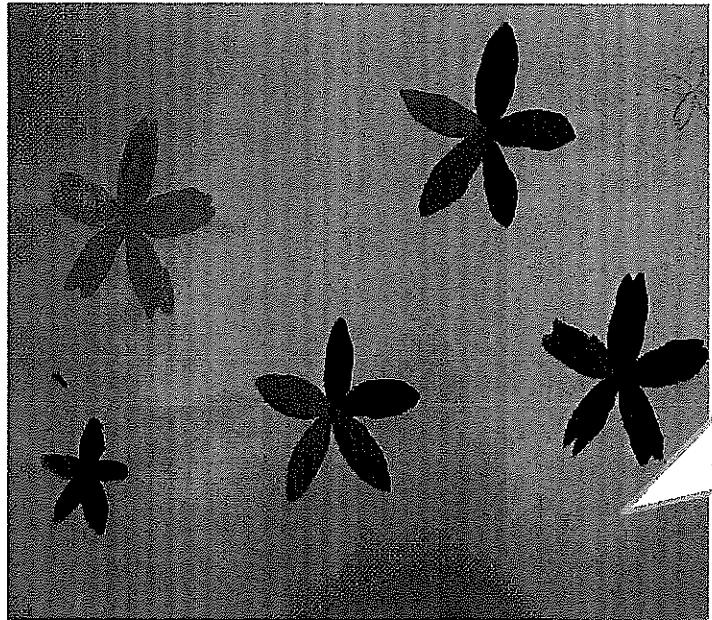
前時に学習した混色の作り方を活用して、自分の思うままの色を作り出す。何度も色を作りながら、納得のいく色を作っていく。今までに作ったことのない色に挑戦したり、知っている色をグラデーションさせていったりする児童が多かった。目的の色だけではなく、偶然できたきれいな色も活用して作業を進めていた。。実際に花を描く作業に入ると、ほとんどの児童が自ら進んで作業に取りかかることができていた。



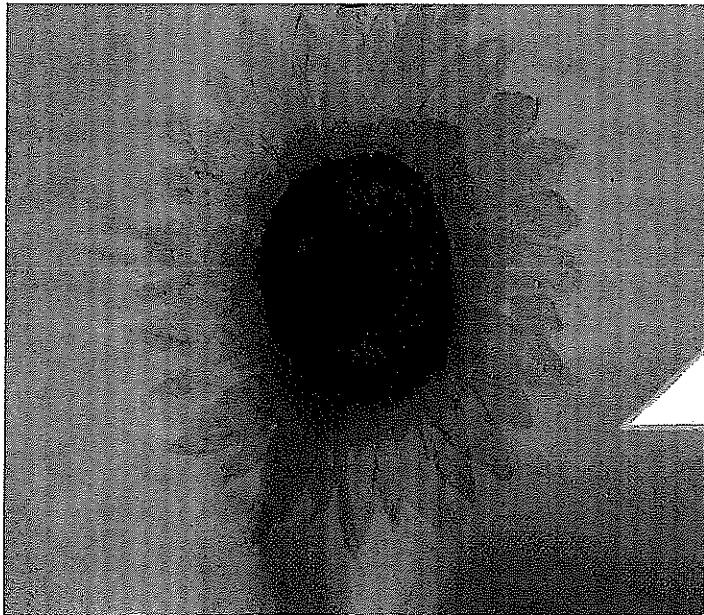
たくさんの中を使い、
カラフルに仕上げてい
る。



一つの色をベースに、
他の色を少しづつ混ぜな
がら混色を作っている。



同じ系統の色を混ぜることで、濃さが変わるグラデーションになっている。



水の量を工夫して、同じ色の絵の具でグラデーションになっている。

第3次 自他の作品を鑑賞して、表現のよさや違い、美しさを話し合う。

ワークシートを使って、友達の作品を鑑賞していく。ワークシートには感想だけでなく、気付いた工夫点や特徴も記録するように指導した。何人かの児童に代表として作品のテーマや工夫点を発表してもらい、取り入れられる良かった所の共通理解を図った。また、グループを作り、順番に作品の良いところを褒め合う活動を取り入れた。様々な作品に触れ

ることで、創作活動に対する意欲が高まるようにした。

III 研究の成果と課題

1 成果 (男子 19 名 女子 16 名 計 35 名 平成 29 年 12 月 4 日)

質問	集計結果
絵画の授業を楽しむことができましたか。	はい：16 どちらかといえばはい：18 いいえ：1 どちらかといえばいいえ：0
創作活動に進んで取り組むことができましたか。	はい：24 どちらかといえばはい：10 いいえ：1 どちらかといえばいいえ：0
工夫しながら目的の色を作り出すことができたか。	はい：9 どちらかといえばはい：14 いいえ：10 どちらかといえばいいえ：2
鑑賞を通して、作品の良いところや工夫を知ることができた。	はい：16 どちらかといえばはい：16 いいえ：3 どちらかといえばいいえ：0

- ・混色ワークシートの活用によって、色を作る活動に対して肯定的に考える児童が増えた様々な色を作る中で、絵画作品を作る活動に対しての苦手意識も少し改善されてきた。楽しく創作活動に取り組む児童も多く、前向きに考えることができるようになった。
- ・自分の考えを表現するために、さまざまな手法に取り組みながら意欲的に活動することができた。花の形や大きさなど、個性をしっかりと表現することができた様子だった。授業の振り返りでも、これまでにない表現ができたという意見が多く挙げられた。
- ・鑑賞の時間では、注目するポイントを焦点化することによって、より具体的な感想や意見をもつことができた。最後に行った振り返りでは、他の作品を褒める言葉や、次回の絵画活動が楽しみという意見も挙がった。

2 課題

- ・発想力の乏しい児童は混色を作る活動が難しく、ワークシートを自力で埋めることができなかった。個々の能力や発達段階に応じたヒントカードなどの支援をする必要があった。

※参考資料

「小学校学習指導要領解説」 文部科学省 平成 20 年 8 月

